

平成24年度教育課程

記

○ 特色ある学校づくりに向けて

地域、児童、学校の実態をふまえ、児童の生きる力をはぐくむため、特色ある学校づくりを進める。

<地域>

- 白子川流域を中心にした豊かな自然、既存の公園、畑が多く、小さい頃から自然に触れる機会が多い。
- 地域住民は、新旧の方々が混在している。地元町会、商店街を中心に地域のまとまりがあり、地域の行事や伝統を伝えている。地域が子供を育てるといふ思いが強く、学校を大切に、好意的である。

<児童>

- 明るく穏やかな児童が多く、互いに顔見知りで仲が良い。素直で指示されたことには真面目に努力する。その一方で、相手の気持ちを考えて行動したり、思いやりの言葉をかけたりすることの苦手な児童もいる。また、学ぶ意欲、自ら考え正しく判断する力、ねばり強くやり通す力、自分の考えや意見を相手に伝える力が十分でない児童も見られる。
- 基本的な学習（家庭学習等）や生活習慣、規範意識を身に付けさせ、学力を高めることが課題である。

<学校>

- 開校35周年目を迎え多くの卒業生を輩出している。本校の卒業生が現保護者としてPTA役員を務めるなど、地域に根付き、歴史・伝統を積み重ねつつある。
- 全校13学級の学校規模で、児童一人一人に応じた教育を推進している。

1 学び合う学校

- ①教育活動全体を通して新学習指導要領の内容を踏まえた学習を実践し、基礎・基本の定着と学力、体力の向上を図る。
 - ・問題解決的な学習、体験的な学習を指導計画に位置付け、図書館の利用も含め、学習意欲を高める。
 - ・算数科を中心とした少人数制指導やティームティーチングによる進め方について研究を進め、児童にあった年間計画を立て個に応じた指導を推進し、基礎・基本の定着を図る。
 - ・校内研究は2年目として、新学習指導要領及び教科書に沿いながら、児童の考えが十分に生かせる授業を組み立て、表現力・活用力を伸ばす指導に努め、一人一人の児童の確かな学力の定着と向上を図る。
- ②道徳教育の充実を図り、豊かな心の育成を図る。
 - ・人権教育の指導計画を基盤に、いじめや偏見、差別のない、互いに認め励まし合う人間関係を築く。
 - ・各学級、学年、学校全体で児童理解を深め、一人一人の個性を尊重する姿勢をはぐくむ。
 - ・道徳授業の改善を図るために、人権教育プログラム研修を活用した研修を進めると共に、道徳授業地区公開講座を実施し、地域と児童の道徳的実践力を育成する。
- ③体育授業の充実や体力強化（縄跳び、マラソン）の活動、休み時間も有効的に活用し、年間を通して健康の保持増進と体力の向上を図る。
 - ・新体力テストを実施して児童の実態を把握し、体育授業や指導の改善を行い体力の向上を図る。
- ④食育を推進し、「早寝・早起き・朝ご飯」を奨励する。規則正しい生活習慣を身に付けさせる。
- ⑤互いの知識や考え、情報等を積極的に伝え合い学び合う児童の育成に努める。
 - ・全教育活動を通して、聞く、話す場を設定し、かかわり合い、学び合う態度を身に付ける。
 - ・情報機器の活用を学ぶとともにインターネット、携帯に関する情報モラルを身に付けさせる。また電子黒板等の活用を図り、より児童の理解が深まる努力をする。
 - ・生活科、総合的な学習の時間等の調べ学習を通して、協力しながら課題追究する力を育てる。

2 楽しい学校

- ①体験活動や交流活動の場を設定し興味関心を高め、新しいことに挑戦しようとする意欲を育てる。
- ②同学年、異学年の児童同士や地域の人々との交流の深め、楽しさを味わわせる。
- ③学校行事や特別活動、外部ボランティアとの交流を通して、人とのかかわりを深め、社会性を育てる。

3 開かれた学校

- ①内に関く
 - ・学年担任制を基盤に、合同授業や交換授業、教科担任などを通して全教職員で児童を育てていく。
- ②外に関く
 - ・全教育活動を保護者・地域に公開し、学校教育への関心を高め、信頼と協力を得る。
 - ・地域社会の教育力や地域教材を積極的に学習に導入し活用していく。
 - ・情報の発信・受信を積極的に行い、地域の要として機能すると共に学校施設を開放していく。
 - ・保護者アンケートの実施、学校評議委員会、学校関係者評価委員会、学校保健委員会の開催を通して、保護者・地域の声を受け止め学校教育の中に活かしていく。

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

人権教育の精神を基本とし、「知・徳・体」の調和のとれた子供の育成に励み、一人一人がそれぞれの得意な分野を伸ばし、社会で自立できる基礎を育成することを目指す。

また、未来を担う子供達と子供達を見守る地域・社会との「出会いの場」である学校として、地域に協力して「開かれた学校」を目指す。

◎考える子（重点目標）「思考力、判断力、表現力、応用力」

○思いやりのある子「人権尊重、思いやり、あいさつ、礼儀、郷土愛」

○たくましい子「体力、忍耐力、向上心」

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

①新学習指導要領に沿った教育を行い、知・徳・体のバランスを考えると共に生きる力の育成を進める。

②新学習指導要領に沿った学習指導計画・評価計画をもとに、児童一人一人の個性や能力を尊重したきめ細かな指導を行い、学習の基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに考える力を育成する。

③学力調査を基にした授業改善推進プランに沿って、実態に即した指導を行う。

④全教育活動を通して児童の興味関心を高め、意欲をもって主体的に問題解決に向かい、最後まで追究する力を育成するため、体験的学習を重視し、課題追究の楽しさや達成感を味わわせる。

⑤校内の組織を生かし、算数での少人数加配教員や学力向上支援講師、算数T Tの講師、外国語活動指導員の活用を図りながら、児童が主体的に学習に取り組む指導法の工夫を追究する。

⑥人権プログラムの活用しながら、教員の人権感覚を向上させ、児童一人一人のよさに目を向けさせる。

心のふれあい相談員・SCと連携し、児童一人一人の様子を理解し、他者の気持ちを考えて行動できる態度を育成する。また、成就感や達成感を味わわせ自信をもたせる。

⑦児童一人一人が自他の生命を尊重し、明るく活力のある生活が送れるよう、体育・健康（食育）の指導を充実させ安全確保に努め、健康の維持と体力の向上を図る。

⑧小中一貫教育の取組として、校区の中学校への授業・行事・クラブへの参加・連携、幼小連携の一貫として、近隣の2幼稚園との交流を更に深める。

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間および特別活動

ア 各教科

①新学習指導要領に沿った年間指導計画や週ごとの指導計画に基づいた計画的な指導と評価を行い、指導方法の改善を進めて、児童の学習意欲を高め、基礎基本の学力の定着を図る。

②児童の思考過程を重視し、自力解決ができる児童を育成するため、教材の工夫や開発、少人数授業、ティームティーチング、ゲストティーチャーを活用した協力的な授業を推進し、個に応じた指導の充実を図るとともに、放課後に学習補充を行う。

③児童自らが考え主体的な学習を支えるため、学校図書室やPC室の更なる充実・整備をすすめ、利便性を図り活用し易い環境にする。

イ 道徳

①全教育活動を通して人間尊重の精神を培い、社会性の基礎を確立し、道徳性を豊かにする。

②道徳の時間を通して道徳的心情を養い、善悪の正しい判断力や道徳的行為の実践力を育成する。

③互いのよさや立場を理解し、よりよい人間関係を築きながら進んで協力し実践する態度を育てる。

④道徳教育推進教師を中心に道徳授業地区公開講座を実施し、道徳教育について相互理解を深める。

ウ 外国語活動

①5・6年では本校で立てた年間指導計画に沿って、英語ノートを使い、外国語活動指導員と連携し積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、英語の表現に慣れ親しむように計画する。

エ 特別活動

①集団活動を通して、各自が問題を解決する場と方法を考え、互いの立場を認め合いながら、信頼と協力のもとによりよい生活を築く実践的な態度を育てる。

②児童一人一人の興味関心を大切に、主体的に目的を達成しようとする積極性と実践力を身に付ける。

③学校行事を通して学校生活に充実感を与えるとともに、学級、学年、学校への所属意識を高める。

④クラブ活動を通して、異学年集団とのかかわりを深め、自己の個性を発揮・発見していくことができるようにする。

オ 総合的な学習の時間

①地域の人との交流や自然、施設等を活用して、体験的な学習や問題解決的な学習を工夫し、主体的に判断し課題を解決する資質や能力を育てる。また、学び方や考え方を身につけて、主体的に生きる力をはぐくむ。

②大泉橋戸公園の水田、緑のカーテンなどを活用した栽培活動を通して、環境への関心を高めるとともに自らの手で栽培収穫することの喜びを味わわせるとともに、安全を確かめながら手を加えて食品等にするなど、新たな活動を創造し展開する。

③留学生との交流や環境教育を通して、国際理解や地球環境についての理解を深める。

④幼稚園や中学校との交流を通して、異年齢集団と主体的にかかわろうとする態度を養う。

(2) 特色ある教育活動

ア 二学期制を生かした教育活動

- ①年に8日間の土曜日の活用と学校図書館の充実、各学期約100日間の中でゆとりを十分活用し、きめ細かな指導と評価、相談活動を行い、学習と学校生活の充実を図る。
- ②夏季休業中には、サマースクールを開催し、教師や地域の方々による特技を生かした講座を開き、児童の可能性を引き出すきっかけとする。
- ③校内の研究教科である「算数」で問題を考える楽しさを感じられるように、また、日常生活に生きる「算数的活動を重視し、表現力を高める算数の授業」を年間を通して計画する。

イ 基礎的基本的な学習を重視した教育活動

- ①朝の時間をチャレンジタイムとし国語科・算数科を中心に繰り返し基礎基本の定着を図る。
- ②算数少人数制指導では、習熟度別、課題別選択指導などを行い、充実を図る。
- ③学力調査に基づき、授業改善推進プランを作成し、指導法や指導体制の工夫、学力の定着を図る。
- ④学力向上支援講師による理科算数でのティームティーチングや学力補充教室を行い、きめ細かな個に応じた指導を実践し、基礎学力の向上を図る。
- ⑤総合的な学習の時間に留学生との交流や日本古来の音楽等に親しむ活動を取り入れ、国際理解を深める。
- ⑥総合的な学習の時間や各教科の学習を通して、コンピュータリテラシーを身につけ、情報活用能力を高めていく。
- ⑦夏季水泳指導、マラソン週間、縄跳び週間などを利用し児童の技能や体力向上を図る。

ウ かかわり合いを重視した活動

- ①異学年集団を組織し、年間を通して活動することにより全校児童の心の交流を深める。
- ②橋戸縁日、集会、レインボー班活動等の集団活動を通して、児童の意欲と自主性を育む。
- ③構成的グループエンカウンターやSST等の教育相談的手法を取り入れ、児童同士の人間関係を深めていく。
- ④生活科・総合的な学習の時間等において、問題解決学習や体験的な活動を取り入れ、児童相互の学び、伸びる意欲の育成とコミュニケーション能力の伸長を図る。
- ⑤集団生活の中での道徳性育成を重視し、人間としてよりよくかかわり、よりよく生きる能力を養う。
- ⑥教育相談日や校長相談日を設け、進路指導などに活かし、学校生活の充実を図る。
- ⑦総合的な学習の時間では、5年生が水田を利用した本格的な稲作、1・2年生のサツマイモ作りや4年生のゴーヤ作りなどで収穫したものを加工し、食する等、を推進していく。
- ⑧地域にある福祉施設との交流、安全安心マップ作り、サマースクール等、学習活動の場を地域へ広げ、地域の人材や自然、施設を有効活用し、活動を充実させる。
- ⑨国語・社会科・理科・総合的な学習の時間等に、取材・見学や体験活動を行い、伝統的な文化にふれる活動を行う。

(3) 生活指導・進路指導

ア 生活指導

- ①全職員の共通理解をもとに、集団生活の基礎を身につけさせる。
- ②集団生活の中で規範意識の内面化を図るとともに、人間相互の信頼を高めながら協力して課題を解決する態度を育てる。
- ③不登校・いじめ等の問題を全職員が共通理解し、心のふれあい相談員、SC、巡回相談員、家庭や関係諸機関との連携を図りながら早期対応・早期解決を図る。
- ④交通安全教室、登校班による安全指導をはじめとして、日常の安全・防犯指導（セーフティ教室・自転車運転免許証制度・情報モラル教室・薬物乱用防止教室等）を徹底し、児童の安全に配慮していく。
- ⑤地域の学校として、近隣の情報等を積極的に受信するとともに、学校の情報を適切に発信し、地域ぐるみで児童の安全を守る体制を整えていく。
- ⑥インターネット、携帯メールの利用をはじめとした情報モラルについて、学年に応じて指導、育成を図る。
- ⑦校内に特別支援教育委員会を設置し、コーディネーターを中心に教職員が連携協力し、配慮を要する児童の理解を深め、よりよい支援体制、学校サポートチームとの連携を築く。

イ 進路指導

- ①キャリア教育全体計画を作成し、児童一人一人の個性を大切に、機会をとらえてその能力の伸長を図り、自己実現の素地および生涯学習の基盤を育成する。
- ②地域学習等で、働く人の姿や、インタビューなどを通して、働く人の社会での役目や働く意識を理解させ、夢をもたせる。
- ③北大泉幼稚園、白菊幼稚園との交流を通して、自分の成長を感じとらせ、小さい子供への思いやりの気持ちや他を愛する心をはぐくむ。
- ④三原台中学校や八坂中学校との交流や体験授業、意見交換会などを通して、中学校での新しい生活が意欲的に充実したものになるよう、一人一人の児童に進級・進学への期待や希望をもたせる。